

第58回試験研究成果発表会（野菜Ⅰ・作物Ⅰ）発表概要

【日時】令和2年11月27日（金）13:00～16:35

【会場】いいおかユートピアセンター（旭市横根 1365-25）

発表1 成果発表

不織布1枚で抽台防止！-5月下旬～6月上旬収穫のダイコンべたがけ栽培-

東総野菜研究室 千吉良 敦史

千葉県の春どりダイコンは従来トンネル栽培で行われてきましたが、2月中旬以降の播種で低コストかつ省力的なべたがけマルチ栽培が可能であることを今までに明らかにしてきました。一方、3月播種では気温の上昇に伴い、過肥大による3L以上の規格や病害等が増加します。そこで、マルチを使用せず、露地栽培に不織布を1枚被覆するだけで抽台発生を防止し、5月下旬～6月上旬に収穫できる栽培方法を開発しました。



無マルチべたがけ栽培



無マルチ栽培「蒼の砦」

発表2 成果発表

ダイコン引抜機による収穫省力化と孔あきP0による省力トンネル栽培

東総野菜研究室 千吉良 敦史

井関農機（株）より販売されたダイコン引抜機 VHD102-S は、集荷・運搬機能は無いものの、1人で操作可能であり、最も負担のかかる引き抜き作業を効率よく行うことができます。そこで、ダイコンの収穫作業における作業負担を軽減するために、ダイコン引抜機 VHD102-S の実用性を評価しました。あわせて、省力化と一斉収穫を可能にし、横しま症を防ぐ孔あき P0 フィルムによる省力トンネル栽培について紹介します。



ダイコン引抜機



農ビ（左）と孔あき P0（右）による
トンネル栽培

発表3 成果発表

異常気象でも着果安定！ハウス抑制トマト栽培

野菜研究室 佐藤 侑美佳

ハウス抑制トマトにおいて、夏の高気温により、生育不良や障害果が多く発生する9～11月の出荷量を安定させる栽培方法を確立しました。

収量を減らさない遮光資材の使い方や、中段の着果を安定させる初期の摘果方法、裂果を抑える整枝方法などを紹介します。



遮光ネットの展張



ハウス抑制トマト栽培

発表4 成果発表

緑肥の後作はリン酸を減らせる！—キャベツ・ニンジンにおけるリン酸減肥栽培—

土壌環境研究室 宮本 昇

緑肥のすき込み後に、後作となる野菜のリン酸を減肥する技術の検討を行いました。緑肥を導入することで、リン酸を20%減肥しても慣行栽培と変わらない収量を得ることができました。

ソルガム—冬どりキャベツ、エンバク—秋冬ニンジンの事例について紹介します。



ソルガムの栽培風景



フレールモアによるソルガムの細断

発表5 成果発表

ソラマメに新しく発生した土壌伝染性ウイルス病の防除技術

病理昆虫研究室 國友 映理子

千葉県で初めて発生した土壌を介して伝染するソラマメえそモザイクウイルス病 (BNMV) の防除対策について紹介します。本病が発病すると葉や果実にモザイク、えそ輪紋、わい化症状を示し、収量が大幅に減少し被害が大きくなります。ソラマメの作付け前にダゾメット粉粒剤 (バスアミド微粒剤) による土壌消毒を実施することで、本病の発病抑制効果があることが明らかとなっています。



BNMV のえそ輪紋症状



株のわい化症状 (左)

発表6 成果発表

極大粒落花生新品種「おおまさりネオ」の特性と栽培法

落花生研究室 青柳 伸之介

千葉県が育成したジャンボ落花生品種「おおまさり」は、これまでにない極大粒で良食味のゆで莢用品種として消費者からの人気が高いものの、大株で栽培しづらい、病気に弱いなどの短所があり、生産者、実需者から改良が求められていました。

そこで、「おおまさり」と比べ株がコンパクトで、収穫時の作業性、病害抵抗性に優れた落花生新品種「おおまさりネオ」を育成したので、その特性と品種の特長を活かす栽培法をご紹介します。



「おおまさりネオ」(左) と
「おおまさり」(右)



「おおまさりネオ (P120 号)」の莢及び子実

発表7 成果発表

極大粒落花生新品種「おおまさりネオ」の生莢出荷における品質保持技術

流通加工研究室 石井 麻美

「おおまさり」の後継品種である極大粒落花生「おおまさりネオ」はゆで豆用の品種で、生莢出荷での流通が期待されています。しかし、生莢での出荷は煎り莢出荷と異なり莢が水分を含んでいるため、カビの発生が起こりやすいこと、また、食味の低下などの品質低下が問題となっています。そこで、市場流通後のカビ発生を抑え、莢の外観と食味の品質を保つ技術を確立したのでご紹介します。



莢の乾燥方法及び包装資材による
外観品質の比較



J A出荷場における生産者出荷品
と試験サンプル